
イミタリスの丘

UNNATURAL

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

イミタリスの丘

【Nコード】

N1492V

【作者名】

UNNATURAL

【あらすじ】

インスタントな超短編民話

むかし、イミタリスという大男が森に住んでいた。大きさは小山ほどあり、歩く度に重い鐘のような音を鳴らしていた。人々はそのあまりの大きさに恐怖した。イミタリスは普段海岸でじつと動かずにただ眠っていた。イミタリスは時折大きなクシャミをした。そのクシャミはまるで山が火を噴くように大きな音で村人は驚いていた。ある時村人たちはイミタリスのクシャミに嫌気がさし、遠方の神が住む村に頼みに行った。村人は神様にイミタリスを退治してくれと頼むと神様は悲しそうな顔で言った。

『その願い叶えるが本当に良いんだな』

村人が小指を差し出すと神様は一人ずつ小指を噛みちぎり、本を取り出し読み上げた。

村人たちが帰ってみるとイミタリスは石になって森に横たわっていた。村人たちは大喜びしてイミタリスに砂をかけ埋めてしまった。村人たちはそうして出来た丘をイミタリスの丘と呼んだ。

しかし半月が過ぎた頃イミタリスが居ないせいで村に強い潮風が吹き込んでくるようになった。畑の植物は枯れ家畜たちは寒さで死んでいった。ただイミタリスの丘の後ろだけは森が枯れずに残っていたので村人はそこに移り村を再建し、自分たちの行いを悔いた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1492v/>

イミタリスの丘

2011年10月6日03時25分発行